

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 1 区分
 【発行日】令和 2 年 4 月 2 日 (2020.4.2)

【公表番号】特表 2019-517119 (P2019-517119A)
 【公表日】令和 1 年 6 月 20 日 (2019.6.20)
 【年通号数】公開・登録公報 2019-023
 【出願番号】特願 2018-562057 (P2018-562057)
 【国際特許分類】

H 0 1 R 13/24 (2006.01)

【F I】

H 0 1 R 13/24

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 2 月 18 日 (2020.2.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1 2】

前記コンタクト部材 (5) は、前記固定セクション (8) によって、少なくとも 1 つの塑性変形可能な接続要素 (15)、特に少なくとも 1 つのリベット (15) によって、前記固定スポット又は前記固定突起 (3) に接続されており、前記接続要素 (15) は、前記コンタクト部材 (5) と 1 つの部品として形成されていることを特徴とする、請求項 1 ~ 11 のいずれか 1 項記載のコンタクト要素 (1)。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1 3】

前記コンタクト部材 (5) は、少なくとも 1 つのリベット (14) によって前記固定セクション (8) における前記固定スポット又は前記固定突起 (3) に接続されており、

前記リベット (14) は、前記キャリアストリップの前記固定セクション (8) 及び前記固定スポット又は固定突起 (3) を貫通して突出していることを特徴とする、請求項 1 ~ 11 のいずれか 1 項記載のコンタクト要素 (1)。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 5 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 5 2】

図 4 a, 図 5 a, 図 6 a, 図 7 a 及び図 8 a は、さらに、第 1 のコンタクト部材 5 a が、固定突起 3 a から見たときに、第 1 のコンタクトセクション 6 が、長手方向に対して横方向で見たときに、第 2 のコンタクト部材 5 b を超えて延びるように、延びていることを明らかに示している。過剰な長さは、矢印 D によって示されている。そうすることによって、第 1 のコンタクト部材 5 a は、第 2 のコンタクト部材 5 b の側からの接点移動の際に、コンタクトが、まず、対応するコンタクト片によって第 1 のコンタクト部材 5 a と形成されるように、第 2 のコンタクト部材 5 b を超えて延びている。つまり、図 4 a, 図 5 a

、図 6 a、図 7 a 及び図 8 a を見ると、コンタクト片が矢印 P' の方向へコンタクト要素 1 に向かって押し付けられたとき、コンタクト片が第 2 のコンタクト部材 5 b と接触する前に、コンタクト片は、まず、第 1 のコンタクト部材 5 a と接触する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 5 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 5 4】

言い換えれば、第 1 のコンタクト部材 5 a の第 1 のコンタクトセクション 6 は、第 2 のコンタクト部材 5 b の上側 2 2 を超えて突出している。第 2 のコンタクト部材 5 b もこの形式で配置されていることは言うまでもない。すなわち、第 2 のコンタクト部材 5 b の第 1 のコンタクトセクション 6 は、第 1 のコンタクト部材 5 a の上側 2 2 を超えて突出するように、特に、第 1 のコンタクト部材 5 a の側からの接点移動の際に、コンタクトが、まず、コンタクト片によって第 2 のコンタクト部材 5 b と形成されるように、配置されている。この移動は、図 4 a に矢印 P によって示されている。